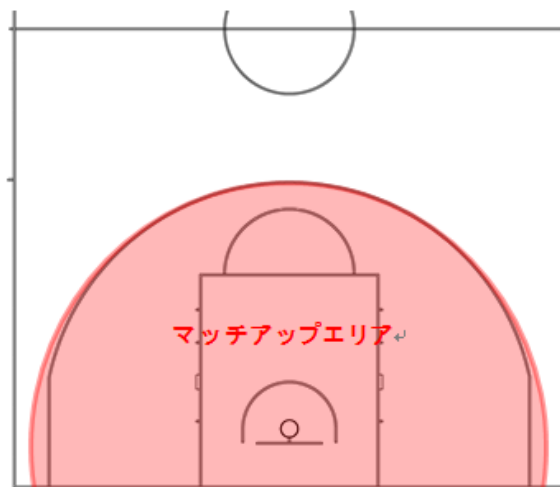


## マンツーマンディフェンスの基準規則

試合におけるマンツーマンディフェンス／ゾーンディフェンスの判定は、大会主催者が任命したマンツーマンコミッショナー(以下「コミッショナー」)が行う。

### 1. マッチアップ

全てのディフェンス側プレイヤーは、マンツーマンで、オフェンス側プレイヤーの誰とマッチアップしているか明確でなければならない。このマッチアップの基準はマッチアップエリア(3ポイントラインを目安とする)内では常に適用される。ディフェンス側プレイヤーのアイコンタクト、言葉のサインまたは手のサイン(指さしすること)により、明確に誰とマッチアップしているかが、コミッショナーにわかること。



### 2. プレスディフェンス

チームがプレスディフェンスを採用した時(フルコート、3/4コート及びハーフコート)でもマッチアップの基準に合致すること。

注意点:様々なゾーンディフェンスまたはコンビネーションディフェンスは、マッチアップエリア以外でも不正である。

プレスディフェンス採用時の基準は以下の通りである(フルコート、3/4コート及びハーフコート):

- ・ボールを持っている選手をトラップすることは許されるが、ローテーション後のピックアップを確実にに行い、コミッショナーにマッチアップが明確にわかるように行うこと。

### 3. オンボールディフェンス

ディフェンス側プレイヤーのポジションは、ボールとリングの間に位置し、距離は最大 1.5メートル、つまりシュートチェックと1対1のドライブを止められる距離であること。

オフェンス側プレイヤーがボールをレシーブした時、ディフェンス側プレイヤーがボールマンにつく意図が明確にわかる、上記した位置と距離にポジションチェンジをすること。

#### 4. オフボールディフェンス

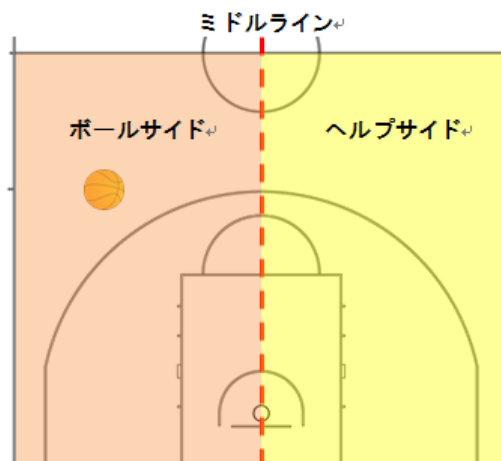
ディフェンス側プレイヤーは常にマッチアップするオフェンス側プレイヤーが見えるか、感じられるように移動しなくてはならない。ボールの逆サイド側(ヘルプサイド)のディフェンス側プレイヤーは、自分のマークマン(オフェンス側プレイヤー)及びボールも見えるポジションを取ること(ボールとマークマンを見る)。

ボールがドリブルまたはパスで動いた場合、全てのディフェンス側プレイヤーはボールと共に動かなくてはならない(ボールが動けば、ボールとオフェンス側プレイヤーが見えるポジションと一緒に動く)。ただし、フェースガードで守る場合はその限りではない。

ボールを保持していないオフェンス側プレイヤーがポジションを変えた場合、ディフェンス側プレイヤーもオフェンス側プレイヤーと共にポジションを変える。オフボールで、スクリーンが無い状況でのスイッチは禁止する。

全てのヘルプサイドにいるディフェンス側プレイヤーは、最低限片足はヘルプサイドに置かなくてはならない。ボールサイドとヘルプサイドの境界線は、ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)である。ただし、ヘルプまたはトラップに行く場合を除く。

全てのポジションで、ボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは違反である。ただし、制限区域内において、予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される(2017年12月9日追加)。



#### 5. ヘルプローテーション

ボールを持っていない選手にマッチアップするディフェンス側プレイヤーは、リングを守るために、オンボールディフェンス側プレイヤーをヘルプできる。

オンボールディフェンス側プレイヤーがペネトレーションを止められず、抜かれた場合、リングへ向かうドリブルペネトレーションに対しては、ヘルプディフェンスが許される。オフボールのオフェンス側プレイヤーが、リングヘカットすることをヘルプすることも許される。

オフボールディフェンス側プレイヤーは、ヘルプディフェンスのために一時的にディフェンスポジションを変えること(ヘルプローテーション)が許される。ただし、ヘルプディフェンス後、全てのディフェンス側プレイヤーは、直ちにオフェンス側プレイヤーとマッチアップ(前記した方法で明確に)しなければならない。

#### 6. スイッチ

スイッチはスクリーン、トラップ後、ヘルプ後と“ラン&ジャンプ”の状況で許されるが、オフボールオフェンス側プレイヤーのポジションチェンジに対するスイッチは違反である。

ディフェンス側プレイヤーがスイッチした場合、プレー中に、ディフェンス側プレイヤーが直ちに新しいオフェンス側プレイヤーとマッチアップ(前記した方法で)したことが、コミッショナーに認識できるように明確にすること。

## 7. トラップ

ボールを保持している選手をトラップすることは許される。ただし、トラップ後は直ちにマッチアップを明確にしなければならない。また、マッチアップが明確であればローテーションが許される。

### ※基準規則違反の罰則

ゲーム中はコミッショナーがマンツーマンディフェンスを監督・管理する。

コミッショナーがマンツーマンディフェンスの基準規則違反を察知した時は、審判に合図し(旗を振る等)、その直後のゲームクロックが止まった際に、審判は両チームのコーチを TO 席前に招き、コミッショナーから内容説明をした後に、審判が警告を与える。

(タイムアウトではないので、選手はコート上にて待機させる。コーチから選手に説明する時間が必要な場合、TO 席前にコート上の 5 人の選手を集め、速やかに説明を行う。)

その後の基準規則違反は、ベンチ(コーチ)のテクニカル・ファウルが適用される。

(注 1)各ピリオド(延長時限を含む)の終了間際に違反行為が生じ、コミッショナーの旗(赤色)が上がリ、そのままゲームクロックが止まらずに各ピリオドが終了した場合、その警告および罰則はすべて有効とする。ただし、トーナメント戦の第 4 ピリオドまたは各延長時限の終了時において、テクニカル・ファウルの罰則によるフリースローを行っても勝敗に影響がない場合は、テクニカル・ファウルを適用しない。なお、ただし以降は、ミニバスケットボールにおいては適用しない。

<勝敗に影響がない場合>

・第 4 ピリオドまたは各延長時限の終了時において、得点の多いチームにフリースローが与えられる場合

・第 4 ピリオドまたは各延長時限の終了時において、得点の少ないチームにフリースローが与えられるが、得点差が 2 点以上離れている場合

(注 2)ゲーム終了間際(第 4 ピリオド・延長時限)残り 2 分を切ったからの違反行為(赤色の旗・警告)については、1 回目の警告でもテクニカル・ファウルの対象とする。ただし、ミニバスケットボールにおいては適用しない。

また、各運営団体の定める取り決めに従い、研修を重ねること。

### ※判定に際しての留意点

技術不足により故意ではない違反行為が発生する可能性もあるため、すぐにゾーンディフェンスと判断せずに焦らずに見極める必要がある。

コミッショナーの役割はマンツーマンディフェンスを普及、推進し、円滑に試合運営を行うことが最大の目的であり、違反行為を取り締まることが目的ではない。違反が目立つ場合は、ピリオド間、ハーフタイムを活用し、コーチにしっかりと説明を行うこと。

公益財団法人日本バスケットボール協会

2015 年 12 月 15 日発行

2016 年 3 月 25 日一部改定

2016 年 10 月 10 日一部改定

2017 年 12 月 9 日一部改定

## マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説

### ◆マンツーマンディフェンスの見分け方

- ・マンツーマンの意識がある。(声のサイン・手のサイン・アイコンタクト・ポジション等)
- ・ボールや相手とともに動いている。
- ・相手チームのフロントコート内のマッチアップエリア付近からはマンツーマンディフェンスを始めている。  
(オールコート、ハーフコート等ディフェンスをし始める位置を定めない。)
- ・マッチアップエリア以外において、チームとして個々のオフENSに対してピックアップするディフェンスを行う場合は、スローインするオフENSにマッチアップしなければならない。

### ◆ヘルプディフェンス

- ・ヘルプローテーション、スイッチを行うことは問題ないが、その後はすぐにマッチアップを明確にすること。
- ・ヘルプディフェンス後に、オンボールのプレイヤーに対してトラップになっても構わない。

### ◆ゾーンディフェンスの見分け方

- ・上記に反すること。
- ・ヘルプサイドにいるオフボールのディフェンス側プレイヤー(3線)の両足がボールサイドにある。
- ・オフボールのオフENS側プレイヤーに対して、数的優位な守り方をしている。
- ・オフボールのスクリーンを伴わないポジションチェンジに対して、スイッチを行っている。  
(スクリーンがある場合にはスイッチが認められる。)

### ◆トラップについて(「マンツーマンディフェンスの基準規則 2. プレスディフェンス 及び 4. オフボールディフェンス」に関する補足)

・ミニバスケットボールにおいて、ボールを持っている選手にトラップが仕掛けられる場面は次のとおりとする。

- (1)ドリブルが行われている時、またはドリブルが終わった時
- (2)パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができる時
- (3)移動が容易に行える距離にある時(自分のマークマンとボールマンの距離の目安:2~3m)

※ U15(中学生)では上記(1)~(3)を適用せず、全ての場面においてボールを保持している選手へのトラップは許される。(2017年12月9日追加)

※「マンツーマンディフェンスの基準規則」および「**同・補足解説マンツーマンディフェンスの基準規則の補足解説**」におけるトラップの定義:

ボールをスティールできる距離における数的優位な守り方

◆ 予測に基づくプレイについて(2017年12月9日追加)

・U15(中学生)においては、マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレイとコミッショナーが判断した場合、基準規則違反とは見なさない。

※予測に基づくとは、予測の根拠となる動きがあることを示す。

※マークマンを意識せずにエリアを守ることはマンツーマンの趣旨に反するため許されない。

※ミニバスケットボールにおいては本項は適用しないが、「マンツーマンディフェンスの基準規則」通り、制限区域内のみで予測に基づいてボールを持っていないオフェンス側プレイヤーをトラップすることは許される。

◆その他

・ミドルライン(リングとリングを結ぶ線)を視覚的にわかりやすくするためにラインを引くことは可能とするが、競技時に支障のない色のラインとすること。

2017年12月9日更新版